

IT 資産管理 人材育成セミナー

名称 『次世代 IT 基盤を支える組織への変革 キーマン人材の育成と従業員教育とは』
日時 2015 年 10 月 22 日 (木) 14:00-16:00
会場 JJK 会館 〒104-8419 東京都中央区築地 4-1-14

2015 年 10 月 22 日 (木曜日) に東京築地 JJK 会館にて IT 資産管理人材育成セミナーを開催いたしました。セミナー第一部では、デロイト トーマツ リスクサービス株式会社の野見山氏を迎え、IT 部門が企業の中でどのようにみられているか、また今後 IT 資産管理は何を目指すべきかについてお話いただきました。また第二部ではアエルプランニングの代表甲田より、IT 資産管理の人材には、どのようなニーズがあり、企業としてどのような教育が必要かを語りました。

第一部講演 「次世代 IT 部門における IT 資産管理の重要性」

デロイト トーマツ リスクサービス株式会社

サイバーリスクサービス パートナー 野見山 雅史 氏

デロイト トーマツ リスクサービスの野見山氏から、「次世代 IT 部門における IT 資産管理の重要性」と題して、IT 部門はどうユーザ部門からみられているか、IT 部門が目指すべき方向性と IT 資産管理というテーマでどのような課題があるかをお話いただきました。



雑誌で発表されている調査結果を元に、IT 部門が認識している自社の役割機能が、ユーザ部門の認識している IT 部門の姿と乖離がある点を具体的に指摘しました。なぜそのようなギャップが生まれるかの要因については、ビジネスにおける IT の比重が高くなっていること、クラウドサービスの普及により、IT 部門に依頼せずにソリューションを実現できること、またセキュリティリスクを担保するために、IT 部門がややもすれば、抵抗勢力になることがあるという考え方を示しました。

IT部門はどう見られているか

- IT部門は利用部門のニーズを理解し、柔軟に対応していると自己評価しているが、利用部門はそのように評価していない
- IT部門は利用部門の「参謀」「パートナー」としてビジネスに貢献していると自己評価しているが、利用部門はIT部門を「門番」「抵抗勢力」と評価している
- IT部門がなくなっても、ITベンダーで代替可能と評価している利用部門もある

© 2015. For information, contact Deloitte Tohmatsu Risk Services Co., Ltd.

次に「IT 部門がめざすべき方向性と IT 資産管理」をテーマに具体的な課題を提示いただきました。IT 部門が求められている方向性を見据えながら、IT 資産管理を実現することによって改善できる課題として「ライセンスコンプライアンス」「コスト削減」「セキュリティ」をあげ、IT 部門の期待値とあわせて、ビジネスと IT の一体化、IT 資産管理を通じた全体最適、また IT サービスの実現に向けたソーシングの検討など、今後 IT 資産管理担当者が社内で検討し提言しなければならないポイントについて簡潔にまとめていただきました。

本日のまとめ

- 次のような背景からIT部門に期待される役割は変化しており、利用部門からの評価を得られない状況となっている

ビジネスにおけるITの重要性向上	・IT部門に対する「ビジネスモデル・業務プロセスの変革」への期待値向上
クラウドサービスの普及・進展	・IT部門不要論の発生
リスク・コンプライアンスの要請強化	・IT部門 = 「門番」「抵抗勢力」のイメージ

- 以上のことから、次世代のIT部門には「①ビジネスとITの一体化」「②全社最適の実現」「③ソーシング戦略を活用したITサービスの効率化・効果向上」が求められる
- IT資産管理はこれらのうち②③の実現に寄与する。②③は「攻めと守り」でいえば「守り」に該当するが、ここで創出されたリソースを「攻め」に活用することが可能である

© 2015. For information, contact Deloitte Tohmatsu Risk Services Co., Ltd.

第二部講演 IT 統制と IT 資産管理を整備するための人づくり

～IT 利用ポリシーと IT 基盤教育ロードマップ～

株式会社アエルプランニング 代表取締役 甲田 展子

アエルプランニング代表甲田からは、変化するネット社会において、そのリスクを正しく把握し、どのような IT 資産管理対策が企業として必要か IT 資産管理の教育のありかたを紹介させていただきました。



「IT 資産管理」という言葉は、日本ではどうしても守りの IT として認識されがちですが、グローバルでは、IT 基盤を経営するという考え方が根底にあるのではないかと感じています。そう考えると、IT 資産管理を行うことは、IT 基盤経営としての、人、モノ (IT)、金 (コスト)、テクノロジー、その上での情報をどう活用、管理するかが本来命題となり IT 戦略上での重要な位置づけなんだと思います。

残念ながら現状の日本ではかなりグローバルとの差が大きく開いており、ライセンスコンプライアンスの観点でフォーカスされる傾向にあり、結果守りの IT になってしまっています。

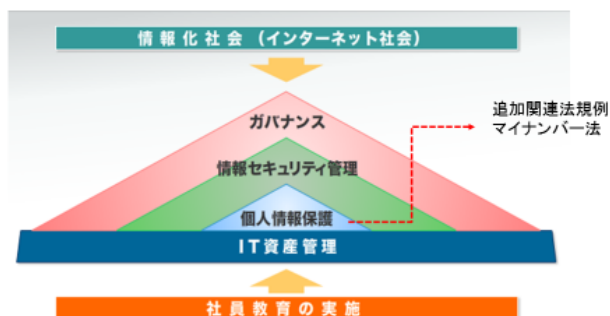
また、企業をとりまく IT 環境はネットの普及で、クラウド登場やマルチデバイス対応、IoT といった、変化の波にさらされています。例えば、今話題のマイナンバー法案は、個人情報保護法の特別法ですが、そういった基礎理解なしに、マイナンバー法だけを対処療法的に取り扱うのは少し違うのではと思います。

今おきている様々な変化に対応して、IT 統制を企業全体でかけた上での教育体系が必要ですが、どうしても教育はおざなりになってしまい、付け焼刃的な対応が多いというのが現状ではないでしょうか。

IT 資産管理は IT 基盤の経営

ビジネスをドライブする IT 基盤経営が **IT 資産管理**

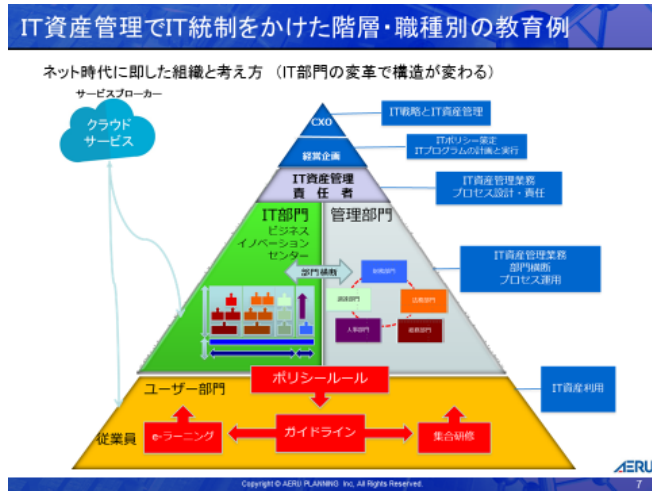
「ヒト、モノ、金、技術、情報」をどうマネジメントするか



IT 統制の観点に戻って考えると、それぞれの立場、ミッションで、IT 資産管理を正しく理解いただく必要があります。この図は、その概念図ですが、特徴的なのは、IT 資産管理を実現するのは IT 部門だけではないという点です。むしろ、組織横断で、変化するネット環境を企業のビジネス戦略と結びつけて、管理部門の人材に IT とビジネス判断するための理解をもっていただく必要があります。また、企業ごとに、IT ポリシーが変わるわけで、その考えをきちんとガイドラインとして設定したうえで、必要な IT 資産管理教育を従業員にするのが、あるべき姿です。

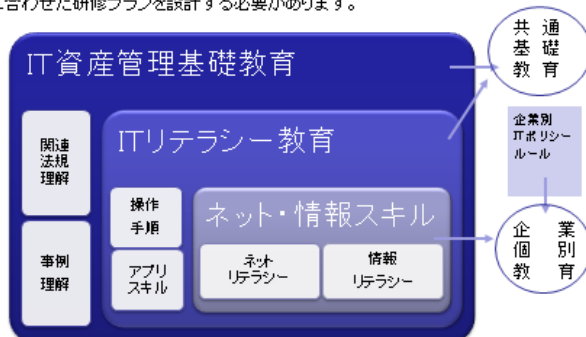
企業の IT 資産管理のキーマンをここでは IT 資産管理者としています。この人が担う役割は大きいといえます。グローバルでは、IT 資産管理者は、引っ張りだこで、ヘッドハンティングされ、キャリアアップをしています。それは、ビジネスと IT を会計側面からみる力をもっていることでもあり、コスト削減の実行者であることが大きく評価されているとみています。早く日本でもそのような形にならないかと私自身、切に願っています。

IT 資産管理は、IT 教育の基盤となるべきです。特に普遍的な IT 共通教育としては、やはり法規を理解する教育です。ぜひ、それは、eラーニング等を活用いただき、基礎教育として企業に定着していくべきだと思います。さらに、その上に変化するネットリテラシー、情報リテラシー教育を時代にあわせて構築していくことが必要だと思います。そのような教育設計をし、実践している企業は、やはりビジネスの中で、IT を使いこなせるわけで、IT とビジネスをうまく使いこなす強い企業といえるでしょう。



ビジネス戦略に影響を受ける IT ポリシー

関連法規(著作権法や個人情報保護法)は、企業人として遵守すべき内容で基礎教育として必要なものです。かたや、そのうえで、ビジネス戦略によって IT 利用範囲は企業ごとにポリシーが変わります。(変化し続けます) IT 研修はこれから、人事担当者は 操作教育だけでなく、ビジネス戦略や、ネットトレンドに合わせた研修プランを設計する必要があります。



本日のまとめ

- IT 資産管理は IT 部門に限定した業務ではなく、IT 資産基盤を経営する意識と全社での取組が必要です。
- ビジネス戦略、IT 戦略に大きな影響を受けるのが IT 資産管理です。IT 基盤のパラダイムシフトを実行するには、時代にあった体制、教育の変革を伴います。
- 組織全体では階層別、機能役割別にネット時代にあった教育が必要となります。
- 特に従業員は、ネットリテラシーの IT 研修が必要となります。
組織的に行うことがビジネスイノベーションの加速につながります。
- 関連法規教育等は、eラーニング等で行い、企業の IT 戦略的な教育や考えは公開研修で行うのが望ましいといえます。

二部の講演資料のダウンロードはここから →

IT 資産管理従業員向け eラーニングはこちらから → <http://www.aeru.co.jp/education/elearning.html>

IT 資産管理教育についてのお問合せはこちらから → <http://www.aeru.co.jp/contact/>